

【 会員投稿 】

人名（名前）のいろいろ

川柳創駄郎

何年か前に子供達の間、「寿限無」という落語が流行りました。（寿限無は、生まれた男の子に寺の住職が長い名前をつけたことによるおかしみが狙いの話です）親としては、良い名前を付けたい一心で長くなった名前です。10年位たちますか、子供に「悪魔」と名づけて役所が受け付けなかった。理由は、役所は苛めを受ける、親は一度覚えてもらえれば忘れないという。

最近落語ブームで襲名ラッシュです。9代目林家正蔵に05年3月に林家こぶ平が襲名。6代目林家小さんに06年9月に柳家三語楼が襲名。2代目林家木久蔵に07年9月に息子のきくおが襲名（初代は木久扇を名乗り、初の親子ダブル襲名）。2代目林家三平には、09年9月に林家いっ平が襲名予定です。ビックな襲名によって名前を世に残していこうということでしょう。

一方地名で恐縮ですが、新太田市が誕生の時に、太田・新田で争ったようです。

敗れた新田は、歴史ある名のため「新田〇〇町」として名を残しました。旧尾島内でも、南ヶ丘町、すずかけ町と新しく認定されております。富士重工群馬製作所内に「スバル町」もあります。人々のそれぞれの考え方、思いが伝わってくるようです

前置きが長かったようですが、本題は有名人のペンネーム、芸名の思いと、名に纏わる事柄を書いてみたいと思います。私は「川柳を 創れど創れど 駄作が多い」ということで「川柳創駄郎」と付けられましたが、今は名付け親に怒っております。なんですか？（ここで私情をだすな）ですって、スママセン。

人名は敬称略とします。カッコ内が本名です。

●阿佐田哲也（色川武大）・・・夜通しの麻雀で「朝だ、徹夜だ」ということから。麻雀放浪記→真田広之、大竹しのぶ出演で映画化。終戦直後のどさくさの時代を背景に、非情なギャンブラー達の闘いと友情をハードボイルドタッチで描く

●石川啄木（工藤一）・・・啄木は、啄木鳥（きつつき）のことで、故郷で聞いたキツツキの音に心慰められたことから。

●江戸川乱歩（平井太郎）・・・アメリカの小説家エドガー・アラン・ポーに私叔してもじったもの。私叔（ししゅく）→直接に教えを受けてないが、その人を慕い、その言動を模範として学ぶこと。「屋根裏の散歩者」「人間椅子」等。日本の探偵小説の基礎を築いた。

●島崎藤村（春樹）・・・松尾芭蕉の句に出てくる藤（ふじ）の花にちなんだものという。また北村透谷（とうこく）の「透」と「村」をもじったものともいわれる。北村透谷→明治期の詩人、評論家。小田原藩医の家の生れ。藤村自身が北村透谷に傾倒した。「破戒」「夜明け前」など。

●司馬遼太郎（福田一）・・・中国歴史家の司馬遷（しばせん）に遼（はる）かに及ばないということから。「竜馬がゆく」「功名が辻」「峠」等。過去にNHK大河ドラマに使用された著書が多い。

●直木三十五（植村宗一）・・・植村の「植」の字を分解して直木とした。三十一歳で執筆をはじめた時に直木三十一（さんじゅういち）として、それから一年ごとに数を増やしていった。三十五歳の時に執筆活動に専念するようになったため、以後はその名で固定した。「南国太平記」。

直木賞→1935年芥川賞と同時に直木三十五の名を記念して文芸春秋社長菊池寛の創設した大衆文学賞。新進作家の文壇への登竜門とされる。参考：「芥川賞」太陽の季節（石原慎太郎）、「直木賞」鉄道員（ぼっばや）（浅田次郎）等。

●夏目漱石（夏目金之助）・・・負け惜しみが強いことをいう。「石に漱（くちす）ぎ流れに枕（まくら）す」から。晋（しん）の孫楚（そんそ）が「石に枕し、流れに漱ぐ」というべきところを誤って「石に漱ぎ流れに枕す」といつてしまったが、とがめられても間違いを認めず屁理屈（へりくつ）を並べてごまかしたという故事から。「さすが」を「流石」と書くこともこの故事による。

「坊ちゃん」「三四郎」「明暗」「草枕」「こころ」等。「明暗」「草枕」等は読んでも難しいと思いますが、「坊ちゃん」は今でも人気があり、小学生に読んでもらいたい一冊です。

07年11月15日付読売新聞、「編集手帳」より

（お手軽に読める“ケータイ小説”対極の書とでも言うべきか。夏目漱石の「坊ちゃん」の自筆原稿を写真版で完全収録した「直筆で読む」坊ちゃん・・・中略。「手書き」の本を味わい、デジタルからアナログに思考回路を切り替えても・・・）と。進化しても戻る事もあるようです。

< 次号に続く >

【 会員投稿 】

人名（名前）のいろいろ（2）

川柳創駄郎

●三島由紀夫(平岡公威:ひらおかきみたけ)・・・乗換駅だった「三島」を苗字にした。またそこから仰ぐ富士の「雪」にちなんで「由紀夫」としたという。「仮面の告白」「金閣寺」「潮騒」等。難しい本が多い様ですが「潮騒」は、中・高校生に読む事を薦めます。(casio XD-ST6200 電子辞書より)

途中ですが一休みして、書いている人が創駄郎さんですから、川柳を幾つかお願いします。
では、時事川柳としては時期のずれがありますので、インパクトは弱いと思いますが・・・。

「ホリエモン 昔はゴエモン 似てるかな」「粉飾も 表に出れば 犯罪だ」「ライブドア 想定外だ 逮捕劇」「定年後 想定内だ 我が家では」格差社会とか、有るとか無いとか。我が家では「妻の声 他人と俺とで 格差あり」

「赤福も ラブチキンモーも みんなうそ」ラブ→恋人(ラブ) 白い恋人、チキン→比内地鳥、モー(牛肉)。「早い人 遅い辞任 政治力」「安倍総理 巨人の阿部と 字(地)が違う」小沢さんは辞任が早い(撤回する)し、安倍さんは参院選後辞任を言われましたが、共に判断ミスで一人芝居だったと思います。政界と野球界を比較することはどうかと思いますが、阿部さんが活躍すればチーム力がアップする。(個人プレーも成立する)。政界では、個人プレーは無理のようです。(反主流派ができる)。これも政治力、地(地盤)の影響で流れが変わっていくようです。地盤→事をなす根拠地。勢力範囲の意味があります。「後釜も 福田福田と 福は内」自民党に 福を呼ぶか、群馬県人としては関心を持ちます。

本線に戻ります。芸能人の芸名について。

レッドソックスで活躍している、「松坂大輔」の大輔は、「Y高」の先輩、荒木大輔の大輔です。野球選手になって活躍出来るように願いをこめて付けた様です。(芸能人でないですが、又記憶違いかも?)

小林稔侍は、鉄道員(ぼっぼや)で高倉健と共演して大感激したそうです。東映下積時代から健さんに憧れていたからです。息子に健をつけ、小林健として俳優で頑張っています。

北島ファミリーの「北山たけし」は、北島の北、山本譲二の山をいただき、北山と付けました。

「加山雄三」(本名:池端直亮)は、加賀百万石の加、富士山の山、英雄の雄、東宝プロデューサーの松山善三の三の名を得て加山雄三と付けました。

朝のテレビ小説(NHK)「ちりとてちん」に出演している「江波杏子」は、話は古くなりますが、東宝で石坂洋次郎の「若い人」の映画化に伴い、主人公の江波恵子役を募集し、江波和子として売り出した。会社の期待がうかがえます。その後遺児が大映ニューフェイスとして入社した。会社側は江波和子の娘とは知らずに採用したのだが、事実が明らかになった時、江波杏子という芸名を彼女に与えた。日活では、江波恵子に吉永小百合、教師たちを石原裕次郎、浅丘ルリ子が演じて映画化した。

NHK大河ドラマ(風林火山)に出演している「藤村志保」は、大映で(破戒)の映画化に伴い原作者の島崎藤村の藤村と、破戒に出てくる志保の名を付けました。

また、「山本勘助」の名から「山勘」という言葉が生まれています。山勘→山師のように、計略にかけて人を動かす。一方、藤村は詩人でもあり、(名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実一つ・・・)という椰子の実の詩がありますが、伊良湖岬に流れ寄った椰子の実にヒントを得て生まれた詩と聞いています。

伊良湖岬→愛知県渥美半島西端の岬、伊勢湾口を挟んで志摩半島に相對する。志摩半島といえば、伊勢神宮(問題を起こした赤福の地元です)、鳥羽港から伊良湖岬に船便がある。

三島由紀夫の「潮騒」の舞台、歌島のモデル「神島」も見られます。

(吉永小百合、浜田光夫)(山口百恵、三浦友和)で、日活と東宝で映画化されております。

まだまだ纏わりついた話がありますが、終りにします。

終りに・・・「暇だから 調べたことを 書くだけさ」「調べても 所詮忘れる 記憶力」

追記 :読むもよし 読まぬもよし 為になるやらならぬやら。所詮徒然(つれづれ)に書いた文章です。

でも、この場所を読んでいる人は、始めから読んでいると確信します。ありがとうございます。

(徒然→することもなく退屈なさま。だから、たまにはペンを取り?こんな心境ですか?)

創駄郎君も、元気に頑張っているようです。よろしくの事です。

< 終 >